

論文の要旨

論文題目 意味から見た語形成 - 接尾辞「-的」「-化」「-性」の語基に課される制約 -
氏名 王 淑琴
学位 博士(文学)
授与年月日 平成 15 年 3 月 25 日

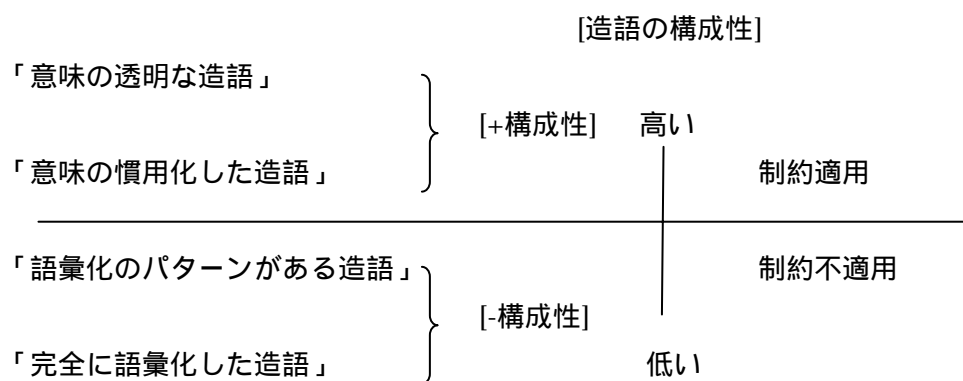
本論文は、接尾辞「-的」「-化」「-性」と結合する語基がどのような意味的な特徴を持たなければならないかを明らかにすることを目的とする。「-的」「-化」「-性」と結合する語基が持つべき一定の意味的な特徴を本論文では、「-的」「-化」「-性」の語基の「意味的な制約」、略して、「制約」と呼ぶ。

従来の研究では、制約という概念を取り入れていないがために、あるいは、制約の概念が不明確なために、「-的」「-化」「-性」がどのような語基と結合するか、あるいは、結合しないかを明らかにすることができない。本論文は、制約という概念を明らかにするために、「構成性の原理 (the principle of compositionality)」という概念を取り入れた。構成性の原理に基づいて「-的」「-化」「-性」による造語を区別することにより、本論文で言う制約は、接辞と結合する語基が満たすべき制約であると同時に、その制約を満たす語基であれば接辞と結合できるということを予測できる造語規則でもあるという二つの機能を同時に果たすことになる。このように定義された制約の概念のもとでは、接辞と共起する、あるいは、共起しない語基を完全に区別することができる。

本論文は、接辞による造語を構成性の原理を満たしているか否かによって区別する。構成性の原理を満たしている造語は、制約が適用されるが、構成性の原理を満たさない造語は、制約を破る例外として排除される。構成性の原理を満たし、したがって、制約を満たさなければならない造語は、意味の透明な造語と意味の慣用化した造語である。これに対し、構成性の原理を満たさず、制約の例外として扱われるのは、意味の語彙化した造語である。

制約の例外として排除された意味の語彙化した造語について、本論文では、単なる分析不可能な現象として片付けるのではなく、「語彙化のパターン」という概念を導入し、意味の語彙化した造語の一部を記述することを試みた。「語彙化のパターン」とは、語基と意味の語彙化した造語の表す事態との間に見られる一定の関係である。「語彙化のパターン」が見られる造語は、語基と意味の語彙化した造語の表す事態との間に一定の関係が見られるものであり、比較的語彙化の程度が低い造語である。本論文が取り入れた構成性の原理及

び制約との関係を次のように表示することができる。



「語彙化のパターン」という概念を導入することによって、接辞には特定の語彙化のパターンが見られることが分かった。さらに、語彙化のパターンは、複合名詞における構成要素間の関係の一部であることも分かった。また、語彙化のパターンという観点から意味の語彙化した造語を考察することによって、比較的語彙化の程度が低い造語の大半は、語基自体に含まれている属性をもとに語彙化が行われ、語形成のプロセスは余剰性がなく経済的であることが明らかとなった。

また、本論文は、語基に課される制約をより自然に説明するために、接辞と結合する語基の満たすべき制約は、接辞の意味から課されるという研究視点を取り入れた。従来の研究では、この視点を欠いているため、制約と接辞の意味との間の関係を説明できないという問題が起こっている。つまり、接辞と結合する語基だけを集めてその中に一般的な特徴を見出しても、なぜその特徴を持つ語基であれば接辞と結合できるかを説明できない。本論文は、「-的」、「-化」、「-性」の意味に基づいて、「-的」、「-化」、「-性」と結合する語基の満たすべき制約を探るという研究視点を取る。この研究視点を取ることによって、「-的」、「-化」、「-性」の語基の満たすべき制約に、より一般的な記述が与えられる。

本論文は6章で構成されている。第1章では、本論文の考察目的と考察範囲を述べる。第2章では、先行研究の研究視点を概観し、本論文の視点及び、実際の議論を展開する際に必要な概念を述べる。続く第3章から第5章までは、第2章で述べた分析視点に基づく具体的な分析である。第3章では「-的」の語基の制約、第4章では「-化」の語基の制約、第5章では修飾機能を持つ「-性」の語基の制約を考察する。そして、最終章の第6章では、まとめと残された課題を述べる。以下は、本論文の研究成果の一部である。

1) 「-的」には、「被修飾語が語基からある属性を受け継ぐ」と「被修飾語が語基と何らかの意味役割的な関係にある」の二つの意味がある。それぞれの意味で「-的」と結合する語基は、それぞれ(a)(b)の制約を満たさなければならない。

(a) 「被修飾語は語基からある属性を受け継ぐ」:

(a-1) 語基が被修飾語の有する属性を表す場合 (属性のみを表す語基):

具体的な事態や状態を表す下位概念を含むものでなければならない。

(a-2) 語基が被修飾語の例示や比喩の対象を表す場合:

顕著なステレオタイプや社会的なステレオタイプを持たなければならない。

(b) 「被修飾語は語基と何らかの意味役割的な関係にある」:

語基の表す概念と区別できるような概念が存在しなければならない。また、その語基の表す概念は、下位概念を持ち、かつ、総称的な概念を表すものでなければならない。

2) 「-化」には、「(ある主体の働きかけによって)ある変化対象が語基の表す状態に変化する」と「(ある主体の働きかけによって)ある変化対象が語基の表す属性の一部を持つようになる」の二つの意味がある。それぞれの意味で「-化」と結合する語基は、それぞれ(a)(b)の制約を満たさなければならない。

(a) 「(ある主体の働きかけによって)ある変化対象が語基の表す状態に変化する」:

制約1「初期状態を持つこと」、制約2「状態を表すこと」

(b) 「(ある主体の働きかけによって)ある変化対象が語基の表す属性の一部を持つようになる」:

顕著なステレオタイプまたは顕著な社会的ステレオタイプを持たなければならない。

但し、「人工物」や「人間の役割や職業」を表す語基は、顕著なステレオタイプを持っていても、「-化」と「(ある主体の働きかけによって)ある変化対象が語基の表す属性の一部を持つようになる」の意味で結合しない。

3) 修飾機能を持つ「-性」は、「被修飾語は語基の属性を帯びている」の意味を表している。修飾機能を持つ「-性」と結合する語基は、次の制約を満たさなければならない。

(a) 「-性」の語基が単一属性を表す場合: 語基自体がある物質や概念などの学術上の定義によって定められた属性を表すこと。

(b) 「-性」の語基が複数属性を表す場合: 語基自体がある専門分野で定義された概念を表すものであること。